

## 第31回（令和7年度（2025年度））熊本県木材利用優良施設コンクール

### 〔顕彰施設一覧〕

賞の名称	顕彰施設		選考委員会 コメント	施主、設計者、施工者		延床面積 (m <sup>2</sup> )	県産材 使用量 (m <sup>3</sup> )	主な使用樹種
	施設名	所在地 (市町村名)		施主	設計者			
熊本県賞	エバーフィールド木材加工場	甲佐町	中に入ると、小中断面の小国材による三角モジュールの連なりが圧巻であった。しかし同時に、意外にも安堵感があった。屋根と壁を同じ構造原理で支えることで、全体的に反りのある、巣のように包み込むような空間が実現している。壁上部を外に傾斜させ、モジュール調整のみで屋根と無理なく一体化させたことが素晴らしい。また、全ての木部材の接合部をデジタルモデルで入念に検討する一方で、高度な手法の隙間を人の手で納めるなど、創意工夫と努力によってこの建築は生まれた。機能は木材加工場である。しかし携わった人々にとって、この建築は誇りそのものであろう。	施主 株式会社エバーフィールド 設計者 有限会社アトリエ・シムサー級建築士事務所 + 合同会社kittan studio + 3916 施工者 株式会社エバーフィールド		638.98	269.84	スギ、ヒノキ
熊本県森林組合連合会賞	熊本市立金峰山自然の家(愛称:ヤマガラビレッジ)	熊本市	RC造の建築が、まさに自然の家と呼ぶに相応しく生まれ変わった。13棟の小さな木造コテージが地形に沿って並び、山間にシルバーグレーの美しい景観を形成している。確かに、分棟形式は管理や移動の点で不便である。しかし自主性を育み、何より移動時に金峰山の自然を感じることができる。これは意図された不便と言える。また、風雨に晒された木材が発する色彩が外壁の防腐塗料として採用することで、劣化防止と緑との調和を両立させている。ここで体験した子どもたちが、自身の子どもを連れて再び時を過ごす。未永く愛され続ける建築になることを願う。	施主 熊本市 設計者 株式会社環境デザイン研究所、株式会社産緑設計 施工者 株式会社三津野建設		2,539.14	475.60	スギ、ヒノキ
熊本県木材協会連合会賞	芦北町地域優良賃貸住宅 友田団地	芦北町	湯浦川の河畔の自然豊かな環境に、R型の屋根を有する住棟が中庭を囲むように配置されている。住棟の構造は木造在来軸組工法で、スキップフロア構成の住戸だが耐震等級3を満たすよう設計されている。設計当初から発注者、設計事務所、伐採業者、製材業者が連携して取り組み、建物の構造材、仕上げ材の全てに町有林の木材を使用し、また住戸内に設置した薪ストーブの薪材として間伐材等を利用するなど、地域林業と自然との共生を試みていることは評価できる。団地全体に木の温かみが感じられ、安全に子育てができる中庭空間、交流を生み出す足湯や住棟間の路地などが魅力的であった。	施主 芦北町 設計者 片山+龍口+太宏共同企業体 施工者 松島・中村特定建設工事共同企業体		1,468.65	295.34	ヒノキ、スギ
熊本県木材事業協同組合連合会賞	渚の交番 HIMETATSU	水俣市	実は、海と木は意外と相性がいい。鉄や鉄筋コンクリートと比べると木は潮風への耐性が比較的高く、海の地域づくり拠点を木造とするのは理にかなっている。海辺であるからこの開放性を木造に備えるため、22mmのフラットバーを木材で挟み、門形フレームを連続させるハイブリッド構造で解を導いている。近郊の山で採取した土を原料とする土壁は自然とは思えない鮮やかな赤で、水俣の青い海と対照で気分を高揚させる。150m弱という小建築だが、壁や軒裏を構成する様々な素材が小気味よいプロポーションで組み合わされ、丁寧にデザインされた建築である。	施主 N P O 法人 おもいでつくる水俣 設計者 株式会社 K A Y アーキテクツ一級建築士事務所 施工者 坂田建設株式会社		213.47	19.09	スギ、ヒノキ

## 第31回（令和7年度（2025年度））熊本県木材利用優良施設コンクール

### 〔顕彰施設一覧〕

賞の名称	顕彰施設		選考委員会 コメント	施主、設計者、施工者		延床面積 (m <sup>2</sup> )	県産材 使用量 (m <sup>3</sup> )	主な使用樹種
	施設名	所在地 (市町村名)		施主	設計者	施工者		
くまと県産材振興会賞	加藤神社 社務所	熊本市	国の特別史跡に建つこの社務所は「後の世の為」というコンセプトのもと、景観に配慮し、鉄骨造船体であるが、木材を仕上げ材に活用し、見ると木造と見間違える。唐破風の玄関アーチをはじめ宮大工の匠の技が存分に発揮されており、玄関扉は伊勢神宮式年遷宮御用材の寄贈ノキ材に加藤神社の家紋が肥後家嵌で入っている。玄関を入れると石の壁と屋根と同色の浅葱色タイルが美しい。東に熊本城天守、西に金峰山を望む2階ホールは、幾何学模様の木製ルーバー天井や家紋をデザインモチーフにした照明、麻材の床など、シックな空間である。	施主 宗教法人加藤神社 設計者 産総設計・大森創太郎建築事務所・建吉組共同企業体 施工者 株式会社建吉組	607.60	11.31	スギ、ヒノキ、クス、イチヨウ	
くまと県産材振興会賞	熊本第一信用金庫 山鹿来民支店	山鹿市	二つのコンクリートの塊の上に乗った大きな木造の屋根が目を引く。両端のコンクリート造の建物は機械室や応接室。これに挟まれるように位置する中央部分はロビーと待合室で、1.2メートル四方の無柱空間。異なる二つの構造をうまく組み合わせたことにより、建物の機能を分け、かつ外観・室内ともに印象的な建物となった。これを可能にしたのは木造の充腹梁であり、地元山鹿市の芝居小屋・八千代座から着想した格子天井とした。道路側にせり出した軒の下はバスの待合スペース。これも木造の良さを知る仕掛けとなるのではないだろうか。	施主 熊本第一信用金庫 設計者 株式会社セルアーキテクト 施工者 株式会社L i b W o r k	283.66	35.69	スギ、ヒノキ	
くまと県産材振興会賞	株式会社 豊工務店 研究棟 (LABO)・厚生棟(太師堂)	熊本市	小高い住宅街に建つ全面ガラス張りの斬新な低層木造オフィスビルは、ヒノキの柱と製材を束ねたBP材の梁で強度と品格を備え、開放的な大空間を創出し、ショールームとばかりに目を引く。隣には、伝統技術を有する職人の技と、木・土・わら・い草・紙など自然素材を用いた伝統建築が並び、地域の気候に適応した上質な和の居空間を形成している。現代的木造建築と伝統構法が共存する姿は、歴史を継承しつつ新たな木造建築への挑戦を象徴しており、モデル的施設として広く活用されることで建築業界のみならず県内の木造回帰と挑戦への機運を巻き起こしたいという意志が伝わってくる。	施主 株式会社 豊工務店 設計者 株式会社 豊工務店 一級建築士事務所 施工者 株式会社 豊工務店	403.76	62.13	スギ、ヒノキ	

※くまと県産材振興会賞記載順は、五十音順です。